

OTARU UNIVERSITY OF COMMERCE

GAKUEN DAYORI

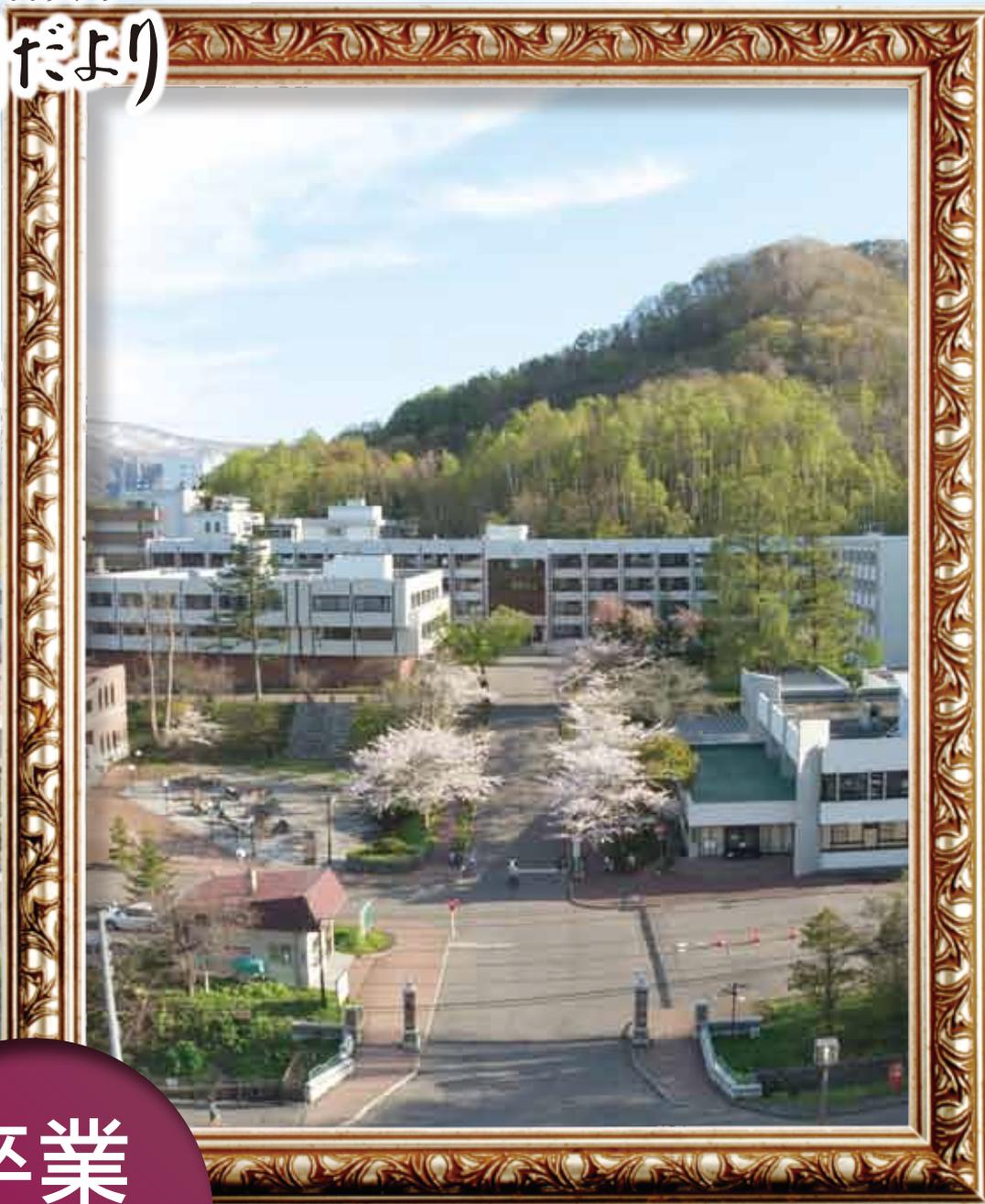


18 March 2014

No.174

小樽商科大学

学園だより



卒業
記念号

「実学、語学及び品格」を胸に

学長 山本 眞樹夫

卒業記念号



■平成25年度卒業生諸君に	
学長 山本眞樹夫	1
■卒業生へ	
副学長(総務・財務担当) 和田健夫	2
副学長(教育担当) 大矢繁夫	2
副学長(大学評価・中期目標担当) 奥田和重	2
公益社団法人 緑丘会	
公益財団法人 小樽商科大学後援会	
理事長 齊藤慎二	3
緑丘会からのお知らせ	4
■卒業にあたって	
経済学科 酒井美保	5
商学科 村川知美	5
企業法学科 長崎滉介	6
社会情報学科 横井大地	6
■修了にあたって	
商学研究科現代商学専攻 王 莉莉	7
商学研究科アントレプレナーシップ専攻 鈴木純平	7
■退任記念最終講義	
学長 山本眞樹夫	8
■退職教員あいさつ	
経済学科 特任教授 今西 一	9
■教員名簿	10
■商大掲示板	
平成25年度 学生表彰	12
第8回「学生論文賞」	13
■平成25年度 小樽商科大学就職状況	14
■訃報	17



平成25年度 卒業生諸君に

「実学, 語学及び品格」を胸に

卒業生, 修了生の諸君, 卒業, 修了おめでとう。例年以上に雪の多かった小樽も, ようやく春の兆しを感じられるようになりました。諸君がこの地獄坂を登り, 緑丘の学び舎で過ごすのも今日が最後になります。

さて, 諸君が学園生活を送った期間は, 本学にとって, また日本にとって激動の時代でした。丁度三年前の2011年3月11日, 東日本大震災がわが国を襲いました。復興はまだ始まったばかりと言ってよいでしょう。福島原子力発電所事故は, 終息の見通しすらたっていません。そんな中, 同年7月には本学創立百周年を諸君と共に祝うことができ, 同窓生や市民と共に感動を共有しました。東日本大震災という, わが国が未曾有の危機にある中, 本学百周年記念事業を行うことに, 私自身, 大きなためらいがありました。しかし, 震災からの復興とは道路や建物を元に戻すことばかりではありません。何よりも一人ひとりが前進する力強い意志を持たなければなりません。被災を免れた我々が力強く前進することが, 被災地の人々の大きな励みにもなると考えました。実際, 被災地にある緑丘会宮城支部の同窓が, 百周年事業を積極的に応援してくれました。

一方, 二年前の5月7日, 本学構内で飲酒事故が発生し, 入学したばかりの一年生部員が亡くなるという大変不幸な結果となりました。亡くなられた学生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。この飲酒事故は, 本学構内で発生し, 死亡事故にまで至ったことなどにより, 大きな社会問題となり, 本学創立以来ともいえる危機となりました。諸君も様々な形で影響を受けたことと思います。当面, 再発防止に全力を尽くしますが, この危機はいまだ継続中であり, まだ総括できる段階にはありません。本学開学以来「諸君を紳士として遇する。」とし, 学生諸君を常識と判断力を備えた大人として扱い, 自由闊達で自主的な活動を尊重するという本学の品格教育の真の意味を, いま, 改めて問い直さなければなりません。

本学は, 初代校長渡辺龍聖以来百年以上もの間, 「実学, 語学及び品格」の育成を変わらぬ教育のモットーとしてきました。

そして, その真の意味を常に問い直してきました。例えば, 創立当初から, 「実学」を, 即戦力となる実践的知識の教授であるとは考えていませんでした。場当たり的な知識や対処法ではなく, 問題の本質を見抜き, 環境の変化に応じた適切な解決策を構想し実践することこそが, 実学であると考えてきました。実学教育のためには, 一見迂遠のようにみえますが, 抽象的な思考ができ, 歴史観をもち, 広い視野で物事を考える能力の育成こそが必要だと考えてきました。

また, 「ビジネスに国境なし。」との認識から語学教育を重視してきました。いま, 本学では語学教育の伝統を引き継ぎながら, 地域を愛し, 地域へ貢献しようとする強い意志をもって, 地球規模で活躍するグローバル人材の育成を構想しています。

皆さんは, 大学を離れ, 当面は新たな職場や環境に慣れ, 仕事等に習熟することに精一杯になるでしょう。しかし, 時に, 仕事の手続きや表面ではなく, 本質を考え, 今行った意思決定や行動がどのような結果をもたらすのかをイメージできる「実学」を実践するように心がけて下さい。また, 語学, とりわけ英語力を錆び付かせないよう, ちょっとした努力をして下さい。わずかでも, こうした心がけ, 努力は必ず大きく報われるはずです。

最後に, 私事で恐縮ですが, 私もこの3月末日をもって小樽商科大学を退任します。十八歳で本学に入学してから, 途中の七年間をのぞき, 学生, 教員そして学長として今日まで地獄坂を登り続けてきました。いま諸君と共にこの緑丘を去ります。ただし, 諸君は, 緑丘を巣立ち, 未来に向かい, これからの人生を切り開いていかなければなりません。「実学, 語学, 品格」のモットーを胸に, 洋々たる未来を切り開いて下さい。諸君の活躍を期待しています。

平成26年3月18日

国立大学法人小樽商科大学長

山本 真樹夫





緑丘を去る 諸君に

副学長(総務・財務担当)

和田 健夫

研鑽を経て緑丘を去る諸君に心から祝福を送ります。小樽商科大学で過ごした時間は、長い人生の中では、僅かなものであっても、得られた経験は、諸君の将来にとってかけがえのない財産となることを確信しています。

日本経済は、長い低迷期から脱しつつあるかのようにみえます。しかし、それも、不安定な、予測のつかない状況のなかで起こっている現象だと思わなければなりません。各国の経済が、国内で完結せ

ず、相互に強く依存し合い、他方で厳しい競争にさらされ、複雑な国際政治が絡むという状況があるからです。

現代は、社会が同一の価値・目標をもって進み、その先には豊かな生活が約束されている時代ではもはやありません。われわれは今、地球という大きな空間・社会のなかに生きています。国境を瞬時に越える大量の情報に囲まれて、何を信じていいかわからず、自分を見失いそうです。

難しい時代にあって、はっきりしていることは、われわれは、好むと好まざるとにかかわらず、人間どうし、あるいは国家や文化の面においても、相互依存の関係を強め、他者との関係なしには生きていけないということです。そこで大切なことは、個人の力、自律した意識と行動ではないでしょうか。このことは、各自が勝手気ままに生きればよいということの意味しません。自律した意識・行動は、高い倫理観を伴うものであり、他の人々や異文化と共生する心によって育まれるのです。卒業後も、修養と自省を怠らないようにしてください。



卒業生諸君へ

副学長(教育担当)

大矢 繁夫

卒業生諸君おめでとう。

諸君の4年間の歩みを思い、心から喜びの気持ちを伝えます。

この4年間に大学は、百周年を祝い、他方で飲酒事故による深い悲しみを受け、喜びと辛苦を併せて経験しました。そして、これらの

ことは、卒業生諸君の胸にも多かれ少なかれ刻み込まれたのは確かでしょう。

しかし、全てを含んだ諸君の4年間に、無駄ということは1つもありませんでした。

今、果敢に世界や地域を担ってゆく気高い志を得た人も、あるいはまだ自分の確たる道を見出せず、彷徨感を拭えない人も、どれもこれも自分の長い行路の1階梯にすぎません。

諸君は結局、凜々とした顔立ちと落ち着きのある澄んだ眼差しをもった人となり、これから遭遇する困難や難題を飲み込んで一回り大きく豊かになります。どうぞ諸君は、眼前に立ち現れる課題に、懸命に、賢明に取り組んでください。

諸君の人生は、うまくゆかないはずはないのです。



卒業生・修了生の 皆さんへ

副学長(大学評価・中期目標担当)

奥田 和重

卒業生、修了生の皆さん、卒業・修了おめでとうございます。皆さんは、学部・大学院で多くのことを学び、本学での学業を終えられました。本日授与された学位記はその証です。さて、大学での学びは本日までに終わりましたが、明日からはどのように過ごされるのでしょうか。アインシュタインは「学べば学ぶほど、自分が何も知ら

なかったことに気づく、気づけば気づくほど学びたくなる。」と述べています。学ぶことで知識が増えれば増えるほど、知らなかったことが多いと気づき、知らなかったことを知るためにさらに学びたいと思うということです。ここで学ぶことをやめてしまったり、知らないことを知っていると勘違いしたりすると、その言動や行動は社会に害を及ぼすかもしれません。孔子は「知るを知ると為し知らざるを知らずと為す是知るなり」と述べています。本当に知るということは、知っていることと知らないことが明確にわかるということで、知らないことについては、教えることが必要です。

大学で学んだことは学問のわずかな部分でしかありません。学問の世界は学べば学ぶほど広がっていきます。本日は学びの終わりの日であるとともに学びの始まりの日でもあるのです。特定の専門分野に囚われず広く学び続けられることを期待しています。

祝 辞

公益社団法人 緑丘会
公益財団法人 小樽商科大学後援会

理事長 齊藤 慎二



卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。
今、大きな夢と希望を抱いて、緑丘から、まさに、第一歩を踏み出さんとしている皆様に心からお祝いを申し上げます。

また、ご子弟の健やかな成長を願ってこられたご家族の皆様、並びに、ご指導にあたってこられた先生方のお喜びもひとしおのことと拝察し、ここに、小樽商科大学の同窓会である「公益社団法人 緑丘会」を代表し、一言、お祝いを申し上げます。

さて、私たちは国の内外に、多くの課題を抱えており、加えて、大震災からの復興など緊急に解決すべき問題にも直面しております。

まさに、グローバルかつ長期的な視点から考えると共に、公正な政策の実行が求められております。

このような時期に卒業され、社会人となり、または、上級の研究課程に進まれる皆さんにはますます研鑽を積み、自らが先頭に立ち、社会に貢献されるように切に希望します。

ところで、「公益社団法人 緑丘会」は1939年（昭和14年）に法人化され、海外を含め27の支部を有し会員6千名余を擁しております。緑丘会員は、ビジネスの分野のみならずまた、国の内外を問わず、目覚ましい活躍をしております。

「公益社団法人 緑丘会」は、諸先輩の永年にわた

るご活躍により、その活動内容と、強い結束力は各分野から高い評価を受けております。

これからも会員相互のネットワークと母校支援を、さらに強化してまいります。

また、1960年（昭和35年）には、母校の学術振興に対する助成を推進するために「財団法人 小樽商科大学後援会」を設立いたしました。

小樽商科大学後援会は、全国の国立大学の同窓会として他に例を見ない規模で緑丘会員を中心として寄付を受け、公益事業を推進する観点から、母校を支援してまいりました。

母校は、「公益財団法人 小樽商科大学後援会」の募金を原資として、国際交流の促進、札幌サテライトの開設運営、ビジネス創造センターの設置、輝光寮の建設等、特色ある事業を展開し、目覚ましい成果をあげてまいりました。

本日で卒業される皆様には、伝統ある「公益社団法人 緑丘会」に正会員として入会され、緑丘会員相互の交流を図るとともに、母校を支援する緑丘会の事業活動の発展のため是非とも若い力を発揮いただけるように大いに期待いたします。

皆様の洋々たる前途を祝福し、併せてご多幸とご健闘を祈念し、お祝いの言葉と致します。

小樽商科大学同窓会 公益社団法人緑丘会

事務局からのお知らせ

事務局長よりメッセージ

公益社団法人 緑丘会 常務理事

事務局長 桶谷 喜三郎
(昭和41年卒)

皆さま、ご卒業誠におめでとうございます。

国内外ともに、極めて多難な状況が続いていますが、この緑丘から実社会へと大きな希望を抱いて巣立つ皆さまに心からお慶びを申し上げたいと思います。

小規模大学の伝統的な強みは、卒業生の結束が固く絆が太いことです。

激烈な競争の企業社会を過ごしてきた経験から申し上げますと、この大学の先輩はみな優しく親切です。いろいろな局面で助けていただきました。人脈の輪を広げて、視野を広げるためにも是非、緑丘会に入会することをお勧めいたします。

札幌駅西隣にオープンしています「札幌サテライト」には、大学当局のご厚意により、緑丘会・札幌事務所と札幌支部のスペースを提供していただいております。皆さまのベースキャンプとしてご利用ください。

また、東京には緑丘会館があります。ちょっと小樽と母校の薫りがするオアシスとして、また東京の足場として是非ご利用ください。テレビ会議システムや無線LANなどのIT環境も整っています。卒業生は勿論ですが、在学生および教職員の方々、ご家族の皆さまのご来館もスタッフ一同心からお待ちしております。

業務日誌（抜粋）

2013年

- 4月20日 新芽交流会（平23/24卒・25新卒合同交流会）
- 6月 8日 公益社団法人緑丘会・第2回社員総会／東京支部総会
東京支部講演会 講師：一橋大学長 山内 進氏
- 15日 札幌支部総会
- 22日 若手OB・OG会員・ホームカミングパーティ（於 緑丘会館）
- 7月 8日 小樽支部総会
- 8月25日 小樽商科大学ビジネススクール(OBS)10周年記念講演会(東京)
講師：ノースウエスタン大学 クラーク・ケイウッド先生
- 30日 小樽商科大学ビジネススクール(OBS)10周年記念講演会(札幌)
講師：ノースウエスタン大学 クラーク・ケイウッド先生
- 12月 7日 東京支部講演会 講師：小樽商科大学キャリア支援課長 富樫 剛氏
- 12日 小樽支部忘年懇親会
- 24日～26日 東京就活体験会、現役学生/OB・OG交流会、東京企業セミナー

2014年

- 1月10日 京都・阪神両支部合同新年会
- 11日 東京支部新年交礼会
- 2月 7日 宮城支部新年会
- 11日 札幌支部新年交礼会

(公社)緑丘会本部，会館所在地（入会及びその他の問い合わせ）

(公社)緑丘会本部・東京事務所 〒170-6057 東京都豊島区東池袋3丁目1-1サンシャイン60(57階)
Tel 03-3981-2340 Fax 03-5396-4011
URL <http://www.ryokyu-web.net/> E-mail: ryokkyukai@axel.ocn.ne.jp

(公社)緑丘会本部・小樽事務所 Tel 0134-27-5463 (月～金 午前10時～午後4時)
(小樽商科大学事務棟2階)

(公社)緑丘会本部・札幌事務所 〒060-0005 札幌市中央区北5条西5丁目7番地sapporo55ビル(3階)
小樽商科大学札幌サテライト内
緑丘会・札幌支部 Tel 011-231-6900 (月～金 午前10時～午後4時)
E-mail: ryokkyukai@galaxy.ocn.ne.jp

「反骨精神」を 築いてくれた商大

経済学科

酒井 美保さん



柴山ゼミのみんなと(後列左から2番目が筆者)

商大で過ごした4年間、商大だから経験できたと感じる
ことがたくさんありました。小さな大学ゆえに良かったこと・苦
労したことがあり、どちらの経験も自分をとても成長させて
くれたと思います。特に商大に入って良かったと思えるところ
は、「反骨精神」を築けたことです。このことは周りと話をし
ていても、私だけではなく卒業する商大生のほとんどが感じ
ているのではないのでしょうか。例えば、多くの部活では部員
が非常に少なく、練習に人数が揃わない、大会に出るメンバ
ーが足りないなどの苦労を味わっています。その中で、そのハ
ンディを各自の工夫で埋め、強豪校に立ち向かうことで強い
精神を築き上げられています。そして、商大はOBの先輩方も
含め、人とのつながりを大切にしている人が多く、そのよう
なハンディを埋めるための努力ができる環境が整っています。
縦横のつながりの強い商大だからこそたくさんの人が支え
て下さり乗り越えられ、「反骨精神」を築くことができるのだ
と感じています。私も、剣道部に所属し、15人ほどという
とても少ない人数で同じような悩みがありました。しかし、た
くさんの人の支えの元そのハンディを埋めるために努力し、
個人戦で全道優勝することができました。

「北に一星あり 小なれど その輝光強し」があらわす
ように、たくさんの商大OBが社会で活躍しています。私も
この4年間を得たことを活かし、春から社会人として先輩
方のように活躍していきたいと思っています。

演劇に打ち込んだ 4年間

商学科

村川 知美さん



演劇戦線のメンバー(前列左から2番目が筆者)

私が商大で最も打ち込んだのは演劇です。演劇サークル
である演劇戦線に所属し、3年生のとき座長を務めました。
もともと私は人前に立つのが苦手な人で、それを克服した
いと思い演劇を始めました。はじめは恥ずかしいと感じる
こともありましたが、先輩からの指導といくつかの舞台を
経ていくうちに、自分とは違う役を演じながら自分を表現
する楽しさを感じるようになりました。演劇戦線の活動で
特に印象に残っているのは、小樽運河プラザで行った引
退前最後の公演『うわさのタカシ』で演じたシズカと『就
活戦線』で演じた人事部長(ボス)です。この公演は2本立
てで、私はおとなしい女の子であるシズカと傍若無人で魔
王のような人事部長(ボス)を演じることになりました。公
務員試験の勉強のため稽古に出られない日もありまし
たし、今まで演じたことのないような役柄だったので戸惑
うこともありましたが、無事冬公演を終えることができた
のは観客の皆様と仲間たちの協力によるものです。役者と
役者を支えてくれる裏方、そして観客がいてこそ舞台は
成立します。演劇戦線の活動を支えてくれる人がいたこと、
人との繋がりの重要さを学べたことが私の学生生活で最
も恵まれたことでした。後輩たちには人との繋がりを大切
に、充実した学生生活を送ってほしいと思います。

小樽の街と 先輩に感謝

企業法学科

長崎 滉介さん



友達と（中央が筆者）

光陰矢のごとし、とはよく言ったもので、これまで先輩方を見送ってきた卒業式に自分が出席する番が来たことが夢のようです。商大に入学し、文芸サークルに入部した私は、先輩方に誘われて夜の小樽の街によく繰り出していました。小樽はこの上なく素敵な街です。観光客向けの小樽運河や北一硝子がよく知られていますが、地元の人々が日常的に通う個人営業の喫茶店などがとりわけ魅力の街であると思います。私は小樽で「不味いカレーライス」というレシピ不明の稀有な料理を出す喫茶店に出会ったことがあります。このような貴重な経験を与えてくれる、小樽は懐の大きい町であります。

そんな素敵な町・小樽を見守るように立つ小樽商科大学もまた魅力に満ちています。歴史ある緑丘祭や美しい藍色の日本海を遠くまで見通せる立地など、良いところを挙げればキリがありませんが、私は本学の先輩方こそが一番の魅力であると感じています。

時に厳しく、時に優しく後輩達に接してくれる先輩方は、自らの経験から学んだ教訓や授業で学んだことを活かしてサークル運営をしてくださいました。先輩が後輩を手厚くサポートする、というのは本学の特徴であり、就職活動にも存分に活かされている強みであります。この強みは小樽商科大学という土壌にしっかりと根付いております。そしてまた、私もこの強みを支える一翼を担えたことを誇りに思います。

人とのつながりを 大切に

社会情報学科

横井 大地さん



緑青祭実行委員会メンバー（壇上前列左から6番目が筆者）

私は神戸出身で、一人で小樽に引っ越してきました。小樽には中学の頃に一回来たことがある、という程度で親戚も知り合いも全くいない状態でした。そのようなこともあり、商大に入学した時には「少しでも顔を売って友達をつくる」というのが目標でした。その方法として商大で多くのサークルや団体に入り活動してきました。バドミントンサークル・バレーボールサークル・夜間主自治会・緑青祭実行委員会など気になったものは全て参加してきました。なかでも、緑青祭実行委員会にて実行委員長をしたことは印象深く思い出に残っています。例年とは違って禁酒を前提とした学校祭作りは一からのスタートで自由にできる半面不安でいっぱいでした。ですが、夜間主の全団体と連絡をとり、各々が連携をとることで困難を乗り越え、新しい学祭のカタチをつくることができましたと思います。

私が感じる商大の魅力は学生同士のつながりの強さです。他大学に比べ小さく、学生数も少ない大学ですが、そこを活かして深いつながりを築いていると思います。同期や先輩・後輩、OBに至るまで強い関係を続けられるのは、商大生が人とのつながりを大切にしているからです。そのため、商大生のコミュニケーション力は高いと定評があるのだと思います。そんな人たちの中で精一杯自分を表現してきたし、させてくれる環境だったからこそ私は商大で人と関わっていく中で自分自身の人格を陶冶できたと思います。後輩たちにもこのような風土を大切にしてもらって、また最大限に利用してもらい活躍してほしいです。

将来は 日中の架け橋に

小樽商科大学大学院商学研究科
現代商学専攻博士前期課程

王 莉莉さん

2011年3月に大手企業の仕事をやめて日本に留学しようと決意し、翌年4月に大学院現代商学専攻に進学しました。大学院での二年間が本当に人生のいい思い出になりました。進学という数年間の夢が叶ったばかりではなく、優しい人々に恵まれ充実した日々を過ごしています。

日本に来たばかりの時、英語専攻の私は日本語にまったく自信がありませんでした。しかし、周りに親切な日本語ボランティアの先生や日本人の友達に恵まれ、日本の生活に直に慣れたと同時に、日本語の能力が徐々に上達しました。大学院1年生になってからは、毎日授業やレポートに没頭して、やる気に燃えていました。再度の勉強の機会を非常に大切にしているのは言うまでもありません。勉強以外の時間帯に、日本語弁論大会に参加したり、ボランティア活動に参加したりして、たくさんの友達ができました。また、2年間に国際交流センターでアソシエイトの仕事をやらせていただいて、そこでの経験が将来の糧となると思います。

卒業してから大学院で学んだ商学に関わる知識を日本企業に活かそうと思っています。そして将来の人生では日中関係の架け橋になることができると思います。最後に、この二年間に細かいところまで指導していただいた先生方々、応援していただいた職員の方々、お世話になった人々へ感謝の気持ちでいっぱいです。私はこの感謝の気持ちを大切に、日本社会で歩いていこうと思います。



努力を 続けていくこと

小樽商科大学大学院商学研究科
アントレプレナーシップ専攻

鈴木 純平さん

私は自分のこれまで得た知識の体系化と仕事でのさらなる飛躍の土台作りのため、OBSの門を叩きました。仕事後の講義と課題は決して楽ではありませんでしたが、素晴らしい教授のもと、安穩と生きているだけでは一生出会えなかった、年代も業種も国籍も異なる仲間たちと、たった2年間という限られた時間に、熱い議論をし、教え教わり、心から励まし合えたことは自分にとってかけがえのない宝物となりました。多分、同期も同じ想いを抱いているはずです。

経営大学院は実社会で役に立ってこそ、その意義があると私は考えます。自分、家族、会社、地域、そして国家に対して、その行動はたとえ小さいものであっても良い考えをもって良い方向へ努力を続けていくことがイノベーションを起こすことにつながることを学びました。私たちは本日卒業しますが、これからが本当の勝負です。たった39名で入学した少ない星ですが、私たちの素晴らしい仲間はそれぞれの分野で「輝光」を放っていくと信じています。そして、私も小さな一つの星として、どこにしようとも努力を続けていく所存です。

最後に、この素晴らしい環境を与えてくださった本学および緑丘会諸先輩方にOBS9期生を代表して心から感謝申し上げます。ありがとうございました。



ビジネスワークショップⅡ最終講義（後列右から3番目が筆者）

山本眞樹夫学長 退任記念最終講義

平成26年1月29日 / 小樽商科大学160教室

1月29日、平成26年3月31日限りで任期満了により退任される山本眞樹夫学長の退任記念最終講義が行われました。

山本学長は平成20年4月から2期6年間学長を務められ、平成23年度の創立100周年の記念行事等を成功させました。

最終講義は今年度新しく改装された160教室を初めて使用して行われ、学生や卒業生、大学関係者や教職員など200名を超える参加者が駆け付けました。卒業生の中には、山本学長の初代ゼミ生・2代目ゼミ生の方々もおり、年月が過ぎても山本先生と卒業生との年月を超えた絆の深さが伺えました。

講義のテーマは『簿記・会計の成り立ち—アカウントビリティの本質—』。

普段、私たちが使っている簿記の中でも主流となっている「複式簿記」がいかにして生まれ、そして広まっていったかというお話、さらには財務会計の考え方の

成り立ち、そして今日企業でも重視され、一般的にも広まってきた言葉である「アカウントビリティ（説明責任）」の本質的な部分について講義が展開されました。

講義を受けた商大生からは、「講義で簿記のやり方について学ぶ機会がありますが、簿記の歴史について学ぶ機会というのは中々ないため、すごく新鮮で興味深い内容でした!」という声が聞かれました。

講義終了後、一橋大学の山内進学長からビデオレターのサプライズメッセージが贈られました。山内学長と山本学長は高校時代の同期というご縁があり、山内学長には本学にも講演に来ていただくなど、盛んに交流が行われています。

互いに研究者を経て、学長となり苦楽をともにした同志へ、山内学長からこれまでの山本学長の功績に対する賞賛とねぎらいの言葉が贈られました。

最後は駆け付けた関係者の方々から次々に花束が贈呈され、山本学長の最終講義は終了となりました。



小樽商大に凭れて22年

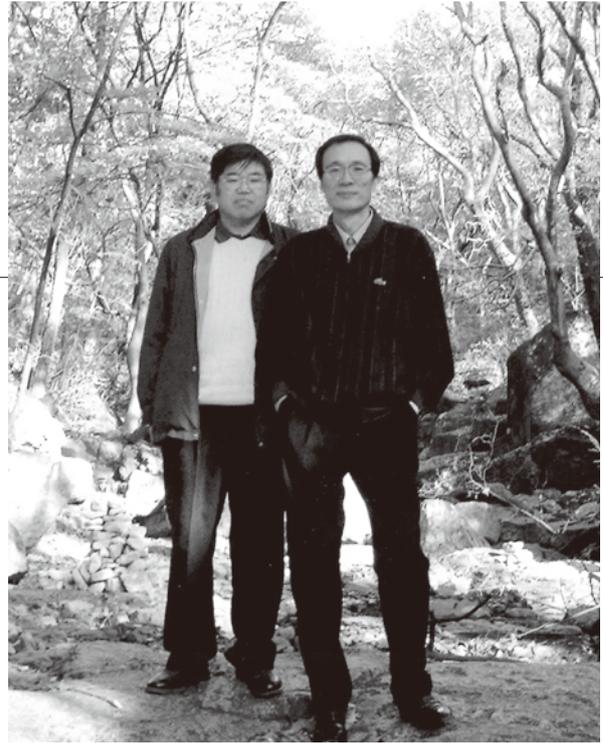
経済学科 特任教授 今西 一

時間の経つのは早いもので、私が小樽商科大学に赴任してから22年になります。初めて小樽に来て、4月1日の初出勤の時、タクシーに乗ったら、運転手さんから「小樽商大にお勤めですか。数日前、商学科のKという先生と朝まで飲んでいました」と言われ、何ともスゴイ大学に来たな、と胸を震わせていたのが、昨日のことのように思い出されます。

ともかく地方の国立大学は、こんなにのんびりした所かと思っていましたが、10年ぐらい前の独立行政法人化から雲行きが怪しくなってきました。来た時は、事務ものんびりしていて、高校野球の決勝戦などが始まると、みんなテレビに囁りついたりしていました。教員同士も仲がよく、週末にはパーティなどをやったり、朝食会といって、午前中は食事をして半日だべっていたりしました。

私は、来た年から病院通いで、飲み会やマージャンなどには付き合いませんでしたが、今でもそうですが、よくいろんな人と夕食には出かけました。2年に1度くらいは入院していて、靭帯骨化症という難病で手術をして、江口修先生や高田聡先生ご夫妻などに、ご迷惑をかけました。いろんな先生が、一人暮らしの私を心配して、家の食事に誘ってくれました。

小樽商大は、私にとっては〈パラダイス〉で、内留に1度（東京大学史料編纂所）、外留に2度（韓国の忠南大学）行かせてもらい、許粹烈先生（写真参照。韓国経済史学会の会長）をはじめ、アジアに多くの友人ができて、今その人たちと共同研究ができています。三木清という哲学者は、「20代の誤りは30代で取り返



許粹烈先生と一緒に（1996年、韓国大田市にて）

せるが、30代の誤りは、40代で取り返せない」（『人生論ノート』）と言っていますが、私は、40代のはじめまでブー太郎でしたが、小樽商大に凭れられて、30代の誤りをずいぶん取り返せました。おかげで共著を入れると自分の年齢ぐらいの本が書けましたし、論文も100本は超えると思います。

しかし、これからの大学は、「新自由主義」改革とかいう嵐が吹き荒れて、毎年、運営交付金は大幅にカットされるし、人減らし合理化はもっと進むでしょう。地方の大学にいる最大のメリットは、地道な研究を、数十年続けていけることですが、それも無理になってくるでしょう。すでに旧国立大学から大都市の私学への「民族移動」は始まっています。小樽商科大学は、日本一小さい国立大学だったのですが、多くの有名な学者を輩出しています。それがこの大学の最大の遺産でした。今後もその美点を忘れないでください。

学生たちも、すなおで性格のいい人たちに出会えました。いろいろ迷惑をかけましたが、本当によくめんどろを見てくれたと思います。今でも、よい出会いがあったことを感謝しています。多謝。

教員名簿

平成26年3月18日現在

学長 山本 眞樹夫
副学長(総務・財務担当) 和田 健夫
副学長(教育担当) 大矢 繁夫
副学長(大学評価・中期目標担当) 奥田 和重

(ダイヤルイン 0134-27-内線番号)

一 商 学 部 一

経 済 学 科

基礎経済学

特任教授 今 西 一 5301
教授 江 頭 進 5300
教授 寺 坂 崇 宏 5315
教授 平 井 進 5323
教授 松 家 仁 5321
教授 山 本 賢 司 5309
准教授 白 田 康 洋 5302
准教授 水 島 淳 恵 5311
准教授 劉 慶 豊 5312

応用経済学

教授 佐 野 博 之 5304
教授 柴 山 千 里 5313
教授 澁 谷 浩 5314
教授 中 島 大 輔 5303
教授 廣 瀬 健 一 5365
教授 船 津 秀 樹 5318
教授 和 田 良 介 5319
教授 横 田 宏 治 5324
准教授 天 野 大 輔 5322
准教授 小 島 直 樹 5305
准教授 中 村 健 一 5317
助手 國 本 さおり 5320

商 学 科

商 学

教授 穴 沢 眞 5328
教授 伊 藤 一 5329
教授 高宮城 朝 則 5330
教授 中 浜 隆 5331
教授 PRAET Carolus 5349
Ludovicus Constantinus
准教授 CLYMER Neil Edward 5337
准教授 鈴 木 和 宏 5476

経 営 学

特任教授 小 田 福 男 5333
教授 金 鎔 基 5335
教授 高 田 聡 5336
准教授 加賀田 和 弘 5334
准教授 加 藤 敬 太 5344
准教授 林 松 国 5350

会 計 学

教授 乙 政 佐 吉 5341
教授 坂 柳 明 5339
准教授 石 川 業 5348
准教授 上 山 晋 平 5469
准教授 二 村 雅 子 5343

企 業 法 学 科

基 礎 法

教授 石 黒 匡 人 5359
教授 小 倉 一 志 5354
教授 佐古田 彰 5362
教授 林 誠 司 5363
准教授 岩 本 尚 禧 5368
准教授 小 島 陽 介 5355
准教授 永 下 泰 之 5351
准教授 板 東 雄 介 5356
助手 松 浦 ゆかり 5372

企 業 法

教授 片 桐 由 喜 5367
教授 多 木 誠一郎 5374
准教授 河 森 計 二 5361
准教授 國 武 英 生 5360
准教授 小 林 友 彦 5380
准教授 才 原 慶 道 5371
准教授 南 健 悟 5353

社 会 情 報 学 科

計 画 科 学

教授 小笠原 春 彦 5376
教授 中 村 隆 志 5377
教授 行 方 常 幸 5382
准教授 大 津 晶 5395
准教授 原 口 和 也 5383
助 教 飯 田 浩 志 5394
助 教 佐 藤 剛 5396

組 織 と 情 報

教授 平 澤 尚 毅 5397
准教授 阿 部 孝 太 郎 5378
准教授 深 田 秀 実 5399

社 会 と 情 報

教授 加 地 太 一 5390
教授 佐 山 公 一 5391
准教授 木 村 泰 知 5388
准教授 沼 澤 政 信 5385

准教授 三 谷 和 史 5392
助 教 芳 澤 聡 5398

一般教育等

哲 学
教 授 久保田 顕 二 5401
心 理 学
教 授 杉 山 成 5402
文 学
教 授 中 村 史 5404
歴 史 学
教 授 荻 野 富士夫 5405
社 会 学
准教授 佐 藤 雅 浩 5414
准教授 西 永 亮 5417
教 育 学
教 授 上 野 耕三郎 5400
教 授 岡 部 善 平 5418
数 学
准教授 赤 塚 広 隆 5406
准教授 米 田 力 生 5413
物 理 学
准教授 杉之原 立 史 5411
化 学
准教授 沼 田 ゆかり 5412
生 物 学
教 授 八 木 宏 樹 5410
保健体育
教 授 中 川 喜 直 5415
教 授 花 輪 啓 一 5416
准教授 石 崎 香 理 5408

言語センター

個別言語部門

英 語
教 授 大 島 稔 5420
教 授 CALUIANU Daniela 5422
教 授 THURMAN John
Phillip Jr. 5435
教 授 BACKER-HOLST
Mark Anthony 5443
教 授 羽 村 貴 史 5424
教 授 山 本 久 雄 5425
准教授 井 上 典 子 5438
ドイツ語
教 授 鈴 木 将 史 5428
教 授 副 島 美由紀 5429
フランス語
教 授 江 口 修 5430
教 授 尾 形 弘 人 5431
スペイン語
准教授 田 林 洋 一 5442

ロシア語
准教授 山 田 久 就 5437
中 国 語
教 授 嘉 瀬 達 男 5433
教 授 裴 崢 5436
朝鮮語系
准教授 李 賢 峻 5432
日 本 語
教 授 高 野 寿 子 5434

応用言語部門

教 授 CLANKIE Shawn
Michael 5419
准教授 FAROUCK Ibrahim 5427

比較言語文化部門

特任教授 高 橋 純 5441
准教授 菅 野 優 香 5444

ビジネス創造センター

教 授 澤 田 芳 郎 5289
准教授 北 川 泰治郎 5447
准教授 後 藤 英 之 5446
助 手 今 野 茂 代 5290

アントレプレナーシップ専攻

教 授 奥 田 和 重 5387
教 授 小 林 敏 彦 5423
教 授 近 藤 公 彦 5326
教 授 齋 藤 一 朗 5345
教 授 瀬 戸 篤 5306
教 授 玉 井 健 一 5332
教 授 出 川 淳 5384
教 授 西 山 茂 5307
教 授 簀 本 智 之 5347
教 授 山 本 充 5381
教 授 李 濟 民 5338
准教授 猪 口 純 路 5497
准教授 小 川 千 里 5490
准教授 堺 昌 彦 5352
准教授 保 田 隆 明 5499
准教授 吉 澤 卓 哉 5494

教育開発センター

助 教 辻 義 人 5464

平成25年度 学生表彰

学生表彰は、①学業の成果が特に優れていると認められる者として、学部の場合、最短修業年限で卒業する者の中から、毎年、成績上位者3名、大学院の場合、現代商学専攻は修士論文・博士論文の成績が特に優れた者、アントレプレナーシップ専攻は最短修業年限で修了する者の中から、毎年、成績上位者1名 ②課外活動の成果が特に顕著であり、かつ、本学の課外活動の振興に功績があったと認められる団体又は個人 ③本学の名誉を著しく高めたと認められる者 ④学長が特に表彰に値すると認めるものに対し、その功績を讃え、今後の励みとなるよう表彰するものです。

被表彰者の選考は、指導教員や顧問教員等の推薦及び学部・両専攻教務委員会の推薦に基づき、学生委員会で審議の上、教授会で決定されます。

平成25年度の学生表彰は、次の方々と団体に対し賞状のほか記念品を贈呈して行い、3月18日挙行の学位記授与式で紹介します。

1. 表彰規程第2条第1号

本学における学業の成果が特に優れていると認められる者

■学部

(学生番号順)

■大学院

氏名	学科
國司えり子	商学科
村松 龍治	商学科
小田嶋玖美	商学科

氏名	専攻
宋 潔	現代商学専攻 博士前期課程
長村 知幸	現代商学専攻 博士後期課程
柳下 堅志	アントレプレナーシップ専攻

2. 表彰規程第2条第2号

課外活動の成果が特に顕著であり、かつ、本学の課外活動の振興に功績があったと認められる団体又は個人

団体名	推薦内容
女子ハンドボール部	北海道学生ハンドボール秋季リーグで優勝し、平成25年度全日本学生ハンドボール選手権大会(インカレ)に出場を果たした。

3. 表彰規程第2条第3号

その他本学の名誉を著しく高めたと認められる者

団体名又は氏名	推薦内容
石川ゼミ	平成24年に行われた日本経済新聞社主催「日経STOCKリーグ」(株式学習コンテスト)において、大学部門に参加した全国610チーム中、第2位(敢闘賞)に入賞した。
株式会社 i-vacs	札幌狸小路商店街を舞台として地域活性化に取り組む大学発ベンチャーとして各種イベントやコラボレーション企画を実施した。同商店街での飲み歩きイベントは平成25年度で5回目を数え、新たに札幌市からも後援を受け、過去最大の規模となった。同社の取り組みは学生が主体となって地域活性化に貢献するユニークな活動として新聞やテレビなどのメディアで取り上げられた。 その取り組みは本学の実学の理念を実践する活動である。
横濱 大成	全国FM放送協議会主催「JFN学生ラジオCMコンテスト2013」において、全国1,455作品の中から最優秀賞に次ぐ優秀賞に輝いた。同学生が制作した本学のPRラジオCMは全国のFM放送で2週間オンエアされ、本学の知名度アップに大きく貢献した。
大津 卓也	経済学検定試験(ERE)において、平成24年度第23回ミクロ・マクロ第19位、平成25年度第24回ミクロ・マクロ第4位と2年連続で上位となるなど、優秀な成績を収め、本学の経済学教育のレベルの高さを全国に知らしめた。

小樽商科大学学術研究奨励事業
第8回「学生論文賞」

小樽商科大学学術研究奨励事業である第8回「学生論文賞」について、学部学生部門に53編、大学部門に2編の計55編の応募があり、11月にプレゼンテーション審査、12月～1月の論文審査を経て、各賞が決定しましたのでお知らせします。

学生論文賞の総評は、本学教育開発センターホームページで公表いたしますので、ご覧ください。

<http://www.otaru-uc.ac.jp/hkyomu1/fdhome/gakuron/gakuron200700.htm>

■ 審査結果

学部生部門

ヘルメス賞(1編)

- ・経験価値デザインによる脱コモディティ化戦略—感性工学アプローチによる製品開発マネジメント—
村松 龍治, 菅沼 昌子, 日向 晃平, 藪下 菜月

優秀賞(5編)

- ・コース・リレーテッド・マーケティングによる脱コモディティ化戦略—社会性・共感性がマーケティング競争優位に与える効果検証—
根反 真美, 窪田 貴文, 笹尾 歩未, 鈴木 理志, 火ノ川公也
- ・老舗企業の経営統合とパラダイム転換—J・フロントリテイリングの経営統合プロセスのケース分析— 千葉穂奈見
- ・感情表現に基づいた場面転換を考慮した物語要約 古屋 真理
- ・カスタマー・エクイティによるサービス・マーケティング戦略—顧客創造・維持・満足のための関係性マネジメント—
浅井美奈子, 相澤 彩花, 古田有里絵, 水田 早紀
- ・大学生のサークル集団における先輩への信頼感と強制感の関係について 長崎 滉介

奨励賞(9編)

- ・企業ドメインの定義と企業革新モデルの関連性～タニタの成長プロセスを通じて～ 柴田 晃里
- ・大学生の居場所とセルフ・エスティーム 中村 俊吾
- ・労働者とSNS-増加するインターネットの炎上トラブル- 水野真美子
- ・四字熟語の選択による文章の要約 鎌田めぐみ
- ・医薬品の理解を深める説明文書のあり方の検討 沼澤 文香
- ・航空ネットワークを利用した地利値分析 松原 もも
- ・地方議会会議録コーパスを用いたオノマトペの使用の地域比較(※ベストプレゼン賞同時受賞) 遠藤 星地
- ・サービスデザインとビジネスモデルとの関係に関する一考察 大村 俊訓, 英 翔太郎
- ・観光地における望ましい混雑度を実現するための価格システムについて 石澤 沙耶

ベストプレゼン賞(1編)

- ・東京ディズニーリゾートにおける社会的文化の生成 高張 真央

大学院生部門

優秀賞(1編)

- ・地域企業における地域ドメインと戦略創造—六花亭製菓の事例から— 笹本 香菜

平成25年度 小樽商科大学就職状況

(平成26年3月4日現在)

1. 進路状況

■商学部

区 分	昼間コース			夜間主コース			合 計		
	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計
卒業者数	296	174	470	27	20	47	323	194	517
就職希望者数	256	160	416	23	19	42	279	179	458
(内訳) 内定者数	251	153	404	21	15	36	272	168	440
(内訳) 未定者数	5	7	12	2	4	6	7	11	18
非就職者数 (予定含む)	31	13	44	4	1	5	35	14	49
進学者数	6	1	7	0	0	0	6	1	7
不詳者数	3	0	3	0	0	0	3	0	3
内定率	98.0%	95.6%	97.1%	91.3%	78.9%	85.7%	97.5%	93.9%	96.1%

■大学院

区 分	現代商学専攻 (博士前期課程)			現代商学専攻 (博士後期課程)			アントレプレナーシップ専攻			合 計		
	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計
修了者数	3	2	5	2	0	2	50	18	68	55	20	75
就職希望者数	0	1	1	0	0	0	2	3	5	2	4	6
(内訳) 内定者数	0	1	1	0	0	0	2	3	5	2	4	6
(内訳) 未定者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
既就職者数	1	0	1	1	0	1	48	15	63	50	15	65
非就職者数	2	1	3	1	0	1	0	0	0	3	1	4
進学者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不詳者数	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

2. 産業別・学科別状況

区 分	経済学科		商学科		企業法学科		社会情報学科		合 計	
	人 数	%	人 数	%	人 数	%	人 数	%	人 数	%
農業・林業	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
漁業	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
鉱業・採石業・砂利採取業	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
建設業	4	2.9%	5	3.4%	2	2.6%	3	3.8%	14	3.2%
製造業	12	8.7%	21	14.5%	6	7.7%	10	12.7%	49	11.1%
電気・ガス・熱供給・水道業	1	0.7%	4	2.8%	0	0.0%	0	0.0%	5	1.1%
情報通信業	6	4.3%	10	6.9%	5	6.4%	11	13.9%	32	7.3%
運輸業・郵便業	2	1.4%	4	2.8%	2	2.6%	3	3.8%	11	2.5%
卸売業・小売業	24	17.4%	23	15.9%	9	11.5%	12	15.2%	68	15.5%
金融業・保険業	48	34.8%	38	26.2%	16	20.5%	17	21.5%	119	27.0%
不動産業・物品賃貸業	6	4.3%	3	2.1%	1	1.3%	6	7.6%	16	3.6%
学術研究・専門・技術サービス業	5	3.6%	6	4.1%	0	0.0%	2	2.5%	13	3.0%
宿泊業・飲食サービス業	1	0.7%	1	0.7%	1	1.3%	0	0.0%	3	0.7%
生活関連サービス業・娯楽業	3	2.2%	3	2.1%	0	0.0%	0	0.0%	6	1.4%
教育・学習支援業	1	0.7%	3	2.1%	2	2.6%	1	1.3%	7	1.6%
医療・福祉	1	0.7%	1	0.7%	2	2.6%	1	1.3%	5	1.1%
複合サービス事業	8	5.8%	6	4.1%	2	2.6%	0	0.0%	16	3.6%
サービス業	7	5.1%	4	2.8%	5	6.4%	4	5.1%	20	4.5%
公務	9	6.5%	13	9.0%	25	32.1%	9	11.4%	56	12.7%
就職決定者数	138		145		78		79		440	
未決定者数	0		8		6		4		18	
内定率	100.0%		94.8%		92.9%		95.2%		96.1%	
進学者数	0		2		2		3		7	
非就職者数	14		9		17		9		49	
不詳者数	0		0		1		2		3	
卒業者数	152		164		104		97		517	

3. 企業等別就職・進学人数

区分	企業等名	人数	
建設業	ヤマチユナイテッドグループ	1	
	株式会社 アーキビジョン21	1	
	株式会社 一条工務店	1	
	株式会社 札幌	1	
	株式会社 泰進建設	1	
	株式会社 朝日工業社	1	
	株式会社 鈴木東建	1	
	三菱電機ビルテクノサービス株式会社	1	
	大成建設株式会社	1	
	東亜道路工業株式会社	2	
	東急建設株式会社	1	
	日鉄住金テックスエンジ株式会社	1	
	(有) 大恵工業レイラム	1	
	製造業	JFE条鋼株式会社	1
		TOTO株式会社	1
		麒麟麦酒株式会社	1
		サッポロビール株式会社	1
タカラスタンダード株式会社		1	
トヨタ自動車北海道株式会社		1	
ニプロ株式会社		1	
マキノジェイ株式会社		1	
ヤンセンファーマ株式会社		1	
リンナイ株式会社		1	
レンゴー株式会社		1	
旭化成株式会社		2	
旭硝子株式会社		1	
沖電気工業株式会社		1	
株式会社 DNP北海道		1	
株式会社 IHI		1	
株式会社 LIXIL		3	
株式会社 オーディオテクニカ		1	
株式会社 カネボウ化粧品		1	
株式会社 ツムラ		1	
株式会社 トーモク		1	
株式会社 ノエビア		1	
株式会社 ホクエイ		1	
株式会社 岡村製作所		1	
株式会社 小松製作所		1	
株式会社 神戸製鋼所		1	
株式会社 日立製作所		1	
共和コンクリート株式会社		1	
三菱重工業株式会社		1	
三菱電機株式会社		3	
三洋工業株式会社		1	
山崎製パン株式会社		1	
住友金属鉱山株式会社		1	
森永乳業株式会社		1	
総合商研株式会社		2	
大日本住友製薬株式会社		1	
日本たばこ産業株式会社		1	
日糧製パン株式会社		1	
富士通株式会社		1	
北海道コカ・コーラボトリング株式会社		1	
六花亭製菓株式会社		3	
北海道電力株式会社		5	
情報通信業	NECネクソソリューションズ株式会社	1	
	SCSK株式会社	1	
	SOC株式会社	1	
	エムネクスト株式会社	1	
	エヌ・ティ・ティ・データ・フォース株式会社	1	
	エヌ・ティ・ティ北海道テレマート株式会社	1	
	ユーザーサイド株式会社	1	
	株式会社 HDC	1	
	株式会社 NEC情報システムズ	1	
	株式会社 アグレックス	1	
	株式会社 インターネットイニシアティブ	1	
	株式会社 インテック	1	
	株式会社 エイチ・エル・シー	1	
	株式会社 エヌ・ティ・ティ・ドコモ	1	
	株式会社 シイエヌエス	1	
	株式会社 ジャパンテクニカルソフトウェア	1	
	株式会社 プライムリンク	1	
	株式会社 ペイロール	1	
	株式会社 ホープス	3	
	株式会社 富士通システムズ・イースト	1	
	株式会社 北海道新聞社	1	
	三菱UFJインフォメーションテクノロジー株式会社	3	
	東日本電信電話株式会社	2	
日本コンピューターサイエンス株式会社	1		
日本放送協会	1		
北海道日本電気ソフトウェア株式会社	2		
郵便輸送業	エア・ウォーター物流株式会社	2	
	センコー株式会社	1	
	ナラサキスタックス株式会社	1	
	ヤマト運輸株式会社	1	

郵便輸送業	日本デイリーネット株式会社	1	
	日本航空株式会社	1	
	北海道中央バス株式会社	2	
	北海道旅客鉄道株式会社	1	
	(株)北洋運輸	1	
	卸売・小売業	YKK AP株式会社	1
		イオン北海道株式会社	1
		エム・エス・ケー農業機械株式会社	1
		キャノンマーケティングジャパン株式会社	1
		クオリ株式会社	1
		シュレン国分株式会社	2
		ハミューレ株式会社	1
		フィールズ株式会社	1
		ホーマック株式会社	1
		マックスバリュ北海道株式会社	2
		ユアサ商事株式会社	1
		リコージャパン株式会社	2
英和株式会社		1	
横浜ゴムMBジャパン株式会社		1	
花王カスタマーマーケティング株式会社		1	
花王プロフェッショナル・サービス株式会社		1	
株式会社 AOKI		1	
株式会社 あらた		1	
株式会社 コメリ		1	
株式会社 サッポロドラッグストア		1	
株式会社 サングリント太陽園		1	
株式会社 セイコーマート		1	
株式会社 セブンイレブン・ジャパン		2	
株式会社 ニトリ		3	
株式会社 ファミリーマート		1	
株式会社 ホンダカーズ札幌中央		1	
株式会社 モロオ		2	
株式会社 ヤブシタ		1	
株式会社 リンクアップ		1	
株式会社 ローソン		2	
株式会社 札幌丸井三越		1	
株式会社 三好商会		1	
株式会社 小樽オルゴール堂		1	
株式会社 大丸松坂屋百貨店		1	
株式会社 丹波屋		3	
株式会社 日本オプティカル		1	
株式会社 北の達人コーポレーション		1	
株式会社 北海道ジェイ・アール商事	1		
国分株式会社	1		
札幌トヨタ自動車株式会社	1		
三菱電機住環境システムズ株式会社	2		
双日株式会社	2		
大丸藤井株式会社	1		
椿本興業株式会社	1		
東日本フード株式会社	1		
日精機工株式会社	1		
日藤株式会社	2		
日本ハム株式会社	2		
日立コンシューマ・マーケティング株式会社	1		
北海道紙管株式会社	2		
北海道エナジエック株式会社	1		
北海道森永乳業販売株式会社	1		
三菱産業埠頭株式会社	1		
金融業・保険業	アメリカンファミリーライフアシュアランスカンパニーオプ コロンバス日本支社	1	
	みずほ証券株式会社	2	
	りそなグループ	3	
	旭川信用金庫	3	
	羽後信用金庫	1	
	株式会社 ニュートン・フィナンシャル・コンサルティング	1	
	株式会社 みずほフィナンシャルグループ	3	
	株式会社 ゆうちょ銀行	2	
	株式会社 りそな銀行	5	
	株式会社 三井住友銀行	4	
	株式会社 三菱東京UFJ銀行	1	
	株式会社 商工組合中央金庫	1	
	株式会社 新生銀行	1	
	株式会社 損害保険ジャパン	1	
	株式会社 大和証券グループ本社	1	
	株式会社 日本政策金融公庫	3	
	株式会社 北海道銀行	11	
	株式会社 北洋銀行	17	
	空知信用金庫	4	
	江差信用金庫	1	
	札幌信用金庫	1	
	札幌中央信用組合	1	
	三井住友海上火災保険株式会社	4	
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	1		
三菱UFJ信託銀行株式会社	3		
室蘭信用金庫	1		
小樽信用金庫	2		
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	3		
帯広信用金庫	2		
大和証券株式会社	1		
第一生命保険株式会社	1		
朝日生命保険相互会社	2		

金融業・保険業	東海東京証券株式会社	8
	東京海上日動火災保険株式会社	1
	苫小牧信用金庫	2
	日本銀行	1
	日本生命保険相互会社	6
	日立キャピタル株式会社	2
	北央信用組合	1
	北海信用金庫	2
	北海道信用保証協会	2
	北海道労働金庫	3
	北門信用金庫	1
	明治安田生命保険相互会社	1
	野村證券株式会社	1
不動産業・物品賃貸業	プライムエージェンツ株式会社	1
	株式会社 カナモト	1
	株式会社 ビッグ	1
	株式会社 レーサム	1
	株式会社 桂和商事	1
	三井住友ファイナンス&リース株式会社	3
	三菱UFJリース株式会社	2
	大和ハウス工業株式会社	1
	大和リース株式会社	1
	東京センチュリーリース株式会社	1
	副都心住宅販売株式会社	1
専門・技術サービス業	北海道空港株式会社	2
	アクセンチュア株式会社	1
	スターツコーポレーション株式会社	1
	ホッカンホールディングス株式会社	1
	株式会社 ドーコン	1
	株式会社 ニトリホールディングス	1
	株式会社 ほくやく・竹山ホールディングス	1
	株式会社 北日本広告社	1
	税理士法人協栄会計	1
	税理士法人池脇会計事務所	1
	税理士法人中央会計事務所	1
堀江税理士社会保険労務士事務所	1	
有限会社 三景スタジオ	1	
有限責任監査法人トーマツ	1	
宿泊業・飲食サービス業	トーホウリゾート株式会社	1
	株式会社 イーストン	1
	野口観光株式会社	1
生潤業・娯楽業・編纂業	加森観光株式会社	1
	株式会社 JTB商事	1
	株式会社 エンバイアー	1
	株式会社 札幌ドーム	1
	株式会社 三慶	1
新和グループ本部	1	
学習支援業	株式会社 個別指導塾スタンダード	1
	株式会社 進学会	3
	国立大学法人北海道大学	1
	国立大学法人北海道大学	2
医療福祉	社会医療法人母恋 日鋼記念病院	1
	社団法人 北海道勤労者医療協会	2
	日本赤十字社	1
サービス業	ホクレン農業協同組合連合会	1
	全国共済農業協同組合連合会	1
	全国農業協同組合連合会	1
	全国労働者共済生活協同組合連合会	1
	日本郵便株式会社	4
	北海道信用漁業協同組合連合会	1
	北海道信用農業協同組合連合会	4
	北海道農業共済組合連合会	1
	北海道農業協同組合中央会	1
	北海道農業団体健康保険組合	1
(他に分類されないもの)	アライドアーキテック株式会社	2
	株式会社 ICSコンベンションデザイン	1
	株式会社 ウェサカ	1
	株式会社 エフブレイン	1
	株式会社 グロウスタッフ	1
	株式会社 フィット	1
	株式会社 マイナビ	2
	株式会社 富士通エフサス	3
	日本年金機構	3
	有限会社 エイチ・ビー・エヌ	1
	ヤマヒコ株式会社	1
株式会社 BookLIV	1	
(他に分類されるものを除く)	岩見沢市役所	1
	警察庁 北海道警察情報通信部	2
	厚生労働省	1
	江別市役所	1
	国税専門官	1
	財務省 北海道財務局	1
	札幌国税局	4
	札幌市役所	15
	札幌道税事務所 税務管理部	1
	室蘭市役所	2
	仙台国税局	1
	帯広市役所	1
	東京消防庁	1
	農林水産省林野庁北海道森林管理局	1

(他に分類されるものを除く)	函館市役所	1
	函館税関	1
	富良野市役所	1
	法務局	2
	豊頃町役場	1
	北海道開発局	1
	北海道警察	4
	北海道公安調査局	1
	北海道庁	5
	北海道労働局	3
	北広島市役所	1
	留萌市役所	1
	進学	小樽商科大学大学院 現代商学専攻
北海道大学 会計専門職大学院		1
北海道大学大学院 法学研究科		1
北海道大学大学院 国際メディア観光研究科		1
北海道大学公共政策大学院		1
一橋大学大学院 商学研究科	1	

【大学院修了者就職先】

アストラゼネカ株式会社	1
アメリカンホーム保険会社	1
オフィスヨシエ	1
セイコーシステムエンジニアリング株式会社	1
ニュージャパン開発株式会社	1
ビックカメラ札幌店	1
ヤマシメイチ物産	1
医療法人 湊仁会手稲湊仁会病院	1
株式会社 アークス	1
株式会社 クリエイティブオフィスキュー	1
株式会社 システム・デザイン・ジャパン	1
株式会社 ニュークリアブレインズ	1
株式会社 ビー・ユー・ジー	1
株式会社 フィッシュランド	1
株式会社 ほくやく	1
株式会社 みずほ栄設計 札幌支社	1
株式会社 みずほ銀行 札幌支店	1
株式会社 丸井今井	1
株式会社 札幌メディカルコーポレーション	1
株式会社 山上ウエサカ	1
株式会社 守谷商会北海道支店	1
株式会社 豊水設計	1
株式会社 北海道銀行	1
株式会社 北海道日本ハムファイターズ	1
株式会社 北洋銀行	1
(株) NTT データ MSE	1
(株) シービーエス	1
(株) ソフト・フロント	1
(株) ツルハホールディングス	1
(株) 吉岡経営センター	1
行政書士法人アースフィールド	1
国土交通省国土地理院 北海道地方測量部	1
財団法人 さっぽろ健康スポーツ財団	1
坂本社会保険労務士事務所	1
札幌医科大学附属病院	1
札幌宮の沢病院	1
札幌商工会議所	1
三井不動産株式会社 北海道支店	1
三幸学園 札幌ビューティーアート専門学校	1
市立札幌病院	1
手稲湊仁会病院	1
秋津道路株式会社	1
総務省北海道総合通信局	1
大成建設株式会社 札幌支店	1
滝川西高等学校	1
東京建物株式会社	1
東日本電信電話株式会社	1
独立行政法人土木研究所 寒地土木研究所	1
日本電気航空宇宙システム株式会社	1
富士通株式会社	1
風月株式会社	1
北央貨物運輸株式会社	1
北海道 生活環境部	1
北海道コカ・コーラボトリング株式会社	2
北海道経済産業局	1
北海道厚生農業協同組合連合会	2
北海道新聞社	1
北海道庁	1
北海道旅客鉄道株式会社	1
北日本トランスポート株式会社	1
日本アイビーエム・ソリューション・サービス株式会社	1
エア・ウォーター物流株式会社	1
アストラゼネカ株式会社	1
株式会社 ティルウィンド	1
株式会社 エコミック	1
釧路町役場	1
本部三慶株式会社	1
株式会社 ビッグハンズ	1

訃報

持田 泰昭 教授



本学商学部社会情報学科教授 持田泰昭(もちだ やすあき)先生におかれましては、病氣療養中のところ、平成26年1月4日(土)にご逝去されました。61歳でした。

持田先生は、昭和52年3月に北海道大学大学院工学研究科修士課程を修了後、富士通株式会社勤務を経て、平成5年7月に本学商学部社会情報学科助教授に採用され、平成10年10月に教授に昇任されました。組織と情報講座において、情報システム管理論などを担当され、平成14年4月からは社会情報学科長や情報処理センター長を歴任されました。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

【持田教授略歴】

昭和52年 3月 北海道大学大学院工学研究科修士課程修了
昭和52年 4月 富士通株式会社(～平成5年6月)
平成 5年 7月 小樽商科大学商学部社会情報学科助教授
平成10年10月 同 教授
平成14年 4月 小樽商科大学社会情報学科長(～平成16年3月)
平成16年 8月 小樽商科大学情報処理センター長(～平成20年3月)
平成20年 4月 小樽商科大学社会情報学科長(～平成22年3月)
平成24年 4月 同 (～平成25年11月)

編集後記

「学園だより」は次号より、大幅にリニューアルされるため、今回が最後の「卒業記念号」となりましたがいかがでしたでしょうか。

山本学長、大変お疲れ様でした。学長在任期間中は、大学の百周年記念行事があり、翌年にはアメフト部の飲酒事故があり、多難な6年間であったと思います。また、山本学長、今西先生ともに長きに渡り小樽商科大学で教鞭をとっていただき、本学の教育にご尽力いただいたことに感謝いたします。持田先生の訃報をお伝えしなかったことは、本当に残念でなりません。お世話になった学生さんもたくさんいることと思います。本日、学び舎を去る卒業生、修了生の皆さん、大学の先生たちが皆さんのために寸暇を惜しんで教材を作成し、授業をしてくださったことをどうぞ忘れないでください。

「学園だより」は、今までは学生のみを対象とした大学広報誌でしたが、次号からは学生・保護者を対象とした広報誌として生まれ変わります。保護者の方へは成績表を送付する際に同封する予定です。今後の「学園だより」にも今までと同様にご支援ご協力を賜りますようお願いいたします。

最後になりますが、「学園だより」の表紙をはじめ、いつも素敵なお紙面を作っていただいた株式会社オー・プランの小笠原社長をはじめ、社員の皆様にご感謝申し上げます。

(学務課)

卒業おめでとう！



OTARU UNIVERSITY OF COMMERCE

GAKUEN DAYORI

No.174

リサイクル適性 

○この印刷物は、国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（グリーン購入法）に基づく基本方針の判断の基準を満たす紙を使用しています。
○リサイクル適性の表示 この印刷物はAランクの資材のみを使用しており、印刷用の紙にリサイクルできます。